

因幡街道大原宿

ふるまち
古町

町並み保存地区

宿場町の面影を今に伝える古町



夢街道ルネサンス認定地区認定

- 智頭急行大原駅下車徒歩約3分
- 鳥取自動車道大原インターより車で約5分
- 中国自動車道作東インターより車で約20分
- 中国自動車道美作インターより車で約40分

岡山県町並み保存地区指定

因幡街道三宿場町



至. 鳥取

智頭町
智頭宿



鳥取藩最大の宿場町として栄えた因幡街道「智頭宿」には歴史的和風建造物「石谷家住宅」や古くから軍神や鎮火の守護神として崇敬される「諏訪神社」などの名称が多くあります。また往時を偲ぼせる町屋の建物や道標が今も残っています。

主な見どころ

- 石谷家住宅 ● 諏訪神社 ● 杉玉工房
- 諏訪酒造・酒造交流館「榎屋」

あわくら温泉 ●

美作市

大原宿

愛の村パーク ●

● 後山

● ベルピール自然公園

古町町並み保存地区 ●

373

429

5

373

美作市
武蔵の里

佐用町
平福宿



平福は、因幡街道唯一の宿場町として栄え、さまざまな旧跡が多く残っています。街道沿いに連なる町家は格子などの意匠が施されており、また街道の裏側になる佐用川沿いも川座敷や土蔵群が軒を連ねています。

主な見どころ

- 平福本陣跡
- 平福陣屋門
- 平福郷土館
- 武蔵初決闘の場

至. 津山

武蔵の里は、武蔵生家跡、武蔵が神主の太鼓のバチさばきを見て二刀流を編み出したと伝わる讚甘神社、少年期の武蔵が平福の母に会うためによく通ったという鎌坂峠など、武蔵にゆかりの名所が多くあります。

主な見どころ

- 宮本武蔵顕彰武蔵武道館 ● 武蔵資料館 ● 青年期宮本武蔵像
- 讚甘神社 ● 宮本武蔵生家跡 ● 武蔵神社 ● 鎌坂峠

至. 姫路

● はりま天文台公園

至. 岡山

お問い合わせ先

美作市 商工観光課 Tel. 0868-72-6693

武蔵の里大原観光協会事務局 (美作市大原総合支所) Tel. 0868-78-3111

美作市の観光情報は

美作観光ナビ

検索

古町の祭り・行事

古町のひなまつり (4月)

旧暦で開催する歴史あるイベント。古町町並み保存地区を中心に、古雛・現代雛など様々な雛人形を飾り、町を散策しながら、ひな巡りが楽しめます。



よんないや夏祭り in 古町 (8月)

夏のイベントで、岡山県名物の夏祭り「うらじゃ」踊りに出場する地元踊り連「うららおほらじゃ」の踊り連が古町を踊り歩きます。



星空ミュージックカフェ (8月)

屋外で星空を眺めながらの野外コンサートです。夏の星空の下で、音楽を楽しんでいただけます。



秋祭り (10月)

因幡街道大原宿の古町町並みを、金糸銀糸の衣装を纏った男たちが、輝く金具の屋台を差し、太鼓の地響きに震えながら、勇壮に華麗に練り歩きます。



4 難波邸 (Hostel Antamina)

築100年の民家を改築し、ジュエリーショップや外国人の旅行者を対象とした宿を営業しています。



3 田中酒造場

明治18年に建てられた、市内で唯一の造り酒屋で「武蔵の里」「白梅」など清酒を造り、販売しています。外観は今も創業当時の趣を残しています。また毎年7月には酒蔵を舞台にしたコンサート等のイベントが開催されています。



2 脇本陣

この宿場の脇本陣は、屋号を米屋といいました。脇本陣は、大名や幕府の要人が本陣に泊まる時、重臣の宿舎にあてられました。平常は第一級の旅館(はたご)として営業を行ったようです。建築は、文政8年(1825)類焼後のもので、主家(桁行7間半、梁間5間半の町屋造り)・玄関・長屋門(桁行9間半、梁間1間半)・池庭・土蔵を備えています。長屋門は、江戸時代普通の家になかったもので、虫籠(むしこ)窓があり、従者の詰めの間や寝間に使われました。北の端の便所には刀懸けがあります。



1 本陣

本陣には、因幡街道を往来する賓客も泊まりましたが、第一の利用者は、因伯2国で32万石の鳥取藩主の池田侯でした。天明3年(1783)類焼の記録があり、現在の本陣の建物は、寛政年間(1789~1801)のものといわれています。池田侯の参勤交代の途中の宿泊に供するために建てられたものですが、本陣は一般に宿場の素封家(そほうか)金持、財産家が指定されました。大名一行は、人数も相当なもので、用意の座敷も多く、格式ある造りでなければなりません。有元家文書によると有元家は宝暦11年(1761)に本陣を命ぜられて明治に至るとあります。それ以前は新免家がしばらく勤め、その後中村家が引き継いでいたといわれています。数寄屋造の御殿と御成門が今なおその姿をとどめています。



◇ 伝統的建造物の意匠 ◇

古町では、享保18年(1733)・天明3年(1783)・文政8年(1825)・天保7年(1836)と4回大きな火災が起こっています。建て込んだ家の造りには、火返し・南北の大壁・通し土間など火災に対応した配慮が見られ、今でも古い町並みが残った理由です。



《出桁(だしげた)》

二階の軒先に桁を持ち出し支える出桁の手法は、古町の町並み景観を大きく特徴づけるものです。この手法は中国地方で広く見られます。古町の出桁は軒裏が人目をひくようになったため、一種の軒飾りとして採用されたようです。



《ナマコ壁(なまこかべ)》

もともとは防火対策のひとつで、二階壁面の足元を保護するもので瀬戸内沿岸に多く見られる手法です。これは手間のかかる高級な仕上げです。白黒のコントラストを持つナマコ壁は町並みの個性的な景観をつくっています。



《袖壁(そでかべ)》

古町では「火返し」といいます。防火の願いを託した水を呼ぶ雲形紋を大胆にあしらったものが人目をひきます。



《虫籠窓(むしこまど)》

2階が低い物置となる場合に使用される特徴的な窓です。

5 本田邸 (観光案内所・民俗資料館)

地元有志の手により整備された古町の観光案内所。観光案内の提供とお土産の販売を行っています。また民俗資料館も併設されており、町人が日常の生活に使っていた民具などが展示されています。



6 旧中国銀行

大正ロマンの趣き漂う洋風の建物です。内部には銀行として使われていた金庫が残っています。



10 みまさかびんころ地蔵

「ピンピン」健康で長生き、終いは「コロッ」。そんな人生、誰もが望みますね。



7 岡本邸

屋号を湊屋とっていました。現在の建物は明治中期のもので。



11 水路

街道の両側に水路があり、洗い場、防火用水、雪流しとしても貴重なものです。



8 消防器具庫 火の見櫓

町並みの趣に調和するように建築されています。



12 道しるべ

元禄2年(1689)に建立。この地点が津山道の起点で、藩役人や村役人が往来しました。



9 ふれあい広場

水琴窟があります。耳を傾けてみてください。



13 三界萬霊の碑

天保13年(1842)建立。人々の往来の多いところに建立されました。